

目 次

1. 第3回CNP協議会の振り返り	1
2. 本日の議事内容について	4

1. 第3回CNP協議会の振り返り

令和5年5月31日に開催した第3回CNP協議会での議事内容は以下のとおり。

議事内容

- (1) 協議会名称変更等を含む「仙台塩釜港カーボンニュートラルポート協議会設置要綱」の変更について承認を得ました。
- (2) 「温室効果ガス排出量の推計」について承認を得ました。
- (3) 「温室効果ガス削減目標」を2030年時点50%削減（2013年比）とすることについて承認を得ました。
- (4) 「水素・アンモニア等の需要推計（水素需要ポテンシャルの試算）」について承認を得ました。
- (5) 「港湾脱炭素化推進計画の計画期間」を2050年までとすることについて承認を得ました。

委員からの意見

- ・ 温室効果ガス削減に向け、1社1設備ごとではなく、企業間の連携によるエネルギーの効率的な利用（例：熱エネルギーを液化水素の気化に利用する）など、港湾全体として広い視点での検討が必要である。

事務局の対応方針

次ページのとおり



1. 第3回CNP協議会の振り返り

前回第3回協議会で意見のあった事項について

<第3回CNP協議会での意見>

- ・ 温室効果ガス削減に向け、1社1設備ごとではなく、企業間の連携によるエネルギーの効率的な利用（例：熱エネルギーを液化水素の気化に利用する）など、港湾全体として広い視点での検討が必要である。

<ヒアリング等による企業からの意見>

企業間連携等によるエネルギーの効率的な利用について

製造業
発電業

排ガスを利用した余熱など自社でできることは**既に取り組んでいる**。

その他、熱を排出している設備はあるものの、安定的に回収・利用していくには**技術開発と多額の費用**を要する。

既に現在の設備は排熱を**回収・利用**する仕組みとなっている。



- ・ 利用可能な排熱においては、**既に自社で回収・利用が行われている**状況である。
- ・ 今後の燃料転換にあたっては、**新たな利活用の選択肢、熱回収・利用の技術開発**がなされる可能性があるため、企業間での利活用も視野に引き続き**協議会にて意見交換を実施**していく。

1. 第3回CNP協議会の振り返り

1. 仙台塩釜港カーボンニュートラルポート協議会設置要綱の変更

◆ 港湾法改正に伴い「**仙台塩釜港港湾脱炭素化推進協議会**」への移行について審議

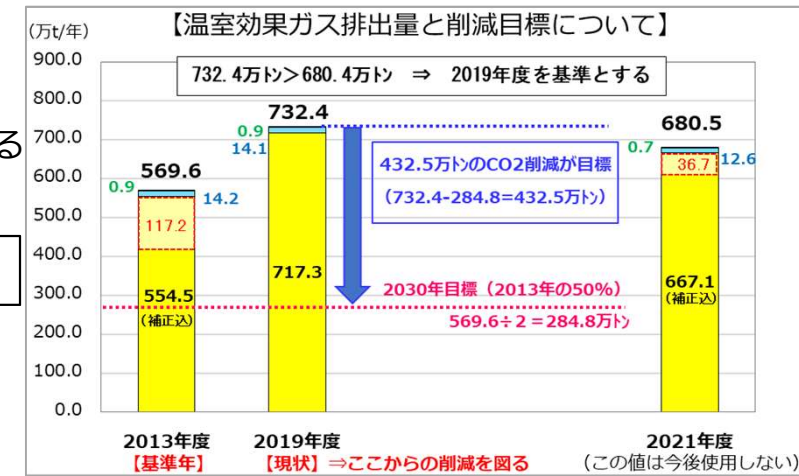
2. 温室効果ガス排出量の推計

◆ 仙台塩釜港における温室効果ガス排出量及び年次設定について審議

⇒ **基準年（2013年度）：569.6万トン**

⇒ **現状（2019年度）：732.4万トン**※

※現状2019年度排出量を基に、温室効果ガス削減に関する事業等を定める「**港湾脱炭素化促進事業（第4回協議会で審議予定）**」を作成する。



3. 温室効果ガス削減目標

◆ 2030年度削減目標（2013年度比）について審議

⇒ **2030年度：50%削減**※

※569.6万トン × 50% = 284.8万トン（2030年排出量目標値）

4. 水素・アンモニア等の需要推計（水素需要ポテンシャル）

◆ 化石燃料を水素に換算した場合の需要量（水素需要ポテンシャル※）について審議

⇒ **仙台塩釜港における需要量：101.5万トン**

⇒ **内陸部における需要量：298.7万トン**

計**400.2万トン**

※現在の化石燃料消費量を用いて前広に水素需要ポテンシャルを推計し次世代エネルギーの受入・供給の施設計画等を定める「**水素・アンモニア等の受入・供給に関する事業**」を作成する。

5. 港湾脱炭素化推進計画の計画期間

◆ 仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画における計画期間（終期）について審議

⇒ **計画期間：2050年まで**

2. 本日の議事内容について

第1・2回 CNP協議会

第1回協議会 (R4.6.8)

- ・趣旨
- ・公募及びWGの説明
- ・企業講演

第2回協議会 (R4.9.9)

- ・先進企業の紹介
- ・【2-2】
温室効果ガス
排出量の試算方法
- ・【2-5】
次世代エネルギー
需要量の推計方法

第3回 CNP協議会 (R5.5.31)

◇審議事項

- ・【2-2】
温室効果ガスの
排出量の推計
- ・【2-4】
温室効果ガスの
排出量の削減目標
- ・【2-5】
水素・燃料アンモニア等の需要推計
- ・【5-1】
港湾脱炭素化推進
計画の計画期間

第4回 脱炭素化推進協議会 (R5.8.31)

◇審議事項

- ・【2-1】
港湾脱炭素化推進
計画の目標
- ・【2-3】
温室効果ガスの
吸収量の推計
- ・【3-1】
温室効果ガス
削減・吸収に
関する事業
- ・【3-2】
港湾・臨海部の
脱炭素化に
貢献する事業

第5回 脱炭素化推進協議会 (R5.11上旬)(予定)

◇審議事項

- ・【4-1、4-2】
計画の達成状況の
評価の実施体制・
手法
- ・【6】
港湾脱炭素化推進
計画の実施に関し
港湾管理者が必要
と認める事項
- ・港湾脱炭素化推進
計画（素案）

第6回 脱炭素化推進協議会 (予定)

◇審議事項

- ・港湾脱炭素化推進
計画（最終案）

パブリックコメントの実施

※第5回脱炭素化推進協議会以降は検討状況により変更の可能性がある。

2. 本日の議事内容について

仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画

第4回協議会（削減目標達成に向けた取組）

【基準年の排出量】

温室効果ガス排出量

2013年度：569.6万トン

【現状の排出量】

温室効果ガス排出量

2019年度：732.4万トン

【削減目標】

温室効果ガス削減目標

2030年：50%削減（2013年比）

2050年：カーボンニュートラル

目標達成指標（KPI）

2030年、2040年、2050年における達成目標

温室効果ガス吸収量

計画策定・見直し時の吸収量：●●万トン

藻場・養殖海藻・干潟・港湾緑地による吸収量

温室効果ガス削減に関する取組

温室効果ガス削減・吸収に関する事業

計画策定・見直し時の削減量：●●万トン

- ・各企業の取組による削減
- ・港湾管理者の取組による削減

貢献

港湾臨海部の脱炭素化に貢献する事業

- ・水素・アンモニア等の受入・貯蔵・供給に関する事業や施設整備 等

今後のエネルギー動向や
技術進展を踏まえて
必要に応じた計画見直しを実施

計画の達成状況の評価等の
実施体制・手法

水素・アンモニア等需要量 （水素ポテンシャル量）

港内：101.5万トン
内陸：298.7万トン } 400.2万トン

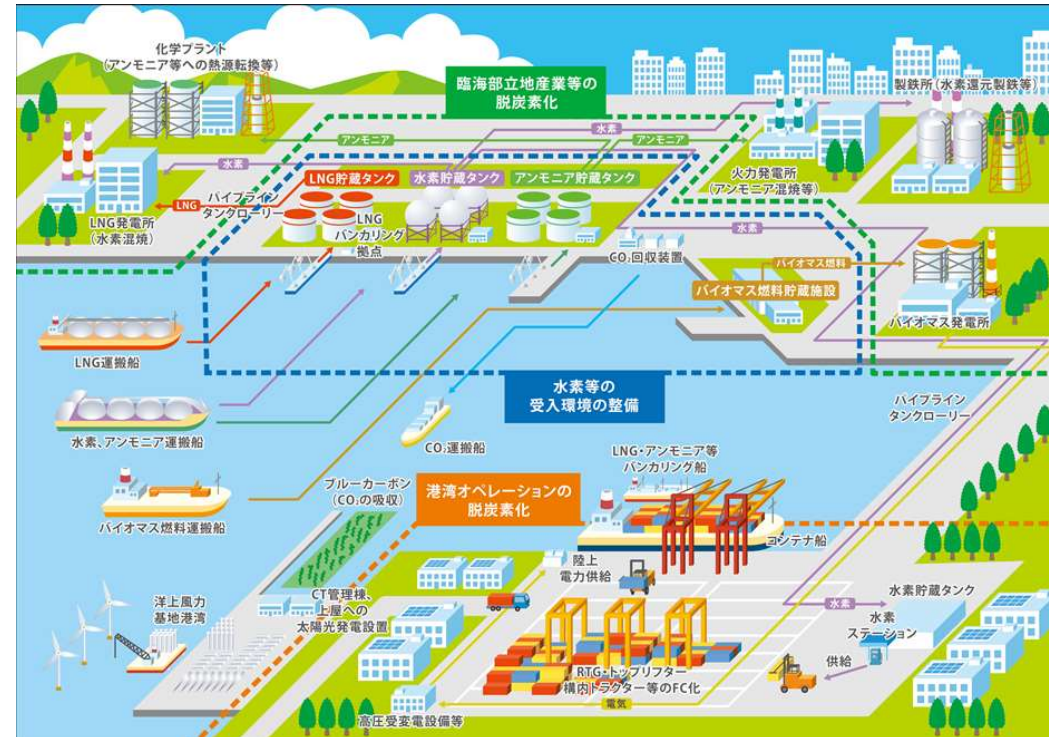
2. 本日の議事内容について（参考）

<仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画の方向性>

- 計画の内容については、**現時点での仙台塩釜港における取組**としてとりまとめを行うもので、記載内容は、今後のカーボンニュートラルに関する**社会情勢の変化や各社取組の具体化により適宜見直し**を実施していく。
- また、今後の2050年カーボンニュートラルに向けての**機運醸成**や、官民連携で**目指すべき方向性の共有**を図る計画としたい。

<計画の位置づけ>

- 港湾における脱炭素化は「輸入貨物の99.6%を取扱う物流拠点」かつ、「CO2排出量の約6割を占める産業拠点」であるため、**効果的な取組み**となる。
- 官民連携による脱炭素化の促進に資する港湾の効果的な利用の推進を図るための計画「港湾脱炭素化推進計画」を作成することで、**取組の全体像や目指すべき方向性を関係者間で共有**し取組の円滑な推進を図るもの。
- 計画策定後においても協議会において継続的にPDCAサイクルに基づき、**計画の達成状況評価**や、**必要に応じた見直し**を行い、2050年カーボンニュートラルに向けた取組を推進するもの。



出典：カーボンニュートラルポートの形成イメージ(国土交通省)